

平成25年度「全国学力・学習状況調査」逗子市の分析結果（小学校）

〇はじめに

平成25年4月24日に「全国学力・学習状況調査」（以下「全国学力調査」という。）が行われました。実施内容は「国語」と「算数」の2教科で、それぞれ「主に知識に関する問題A」と「主に活用に関する問題B」がありました。併せて、子どもたちの生活実態の質問紙調査も行われました。

今回の調査は、児童の学力・学習状況を全国的な状況との関係において把握・分析するとともに、分析結果を踏まえ、各学校において今後の指導方法の工夫と改善に活用すること、本市の教育施策の成果と課題を把握しその改善を図ることを目的としています。

なお、ここでいう学力は全国学力調査で測ることのできた学力の一部であり、子どもたちの持つ学力全てを示すものではありません。

1 実施状況

○調査実施日 平成25年4月24日（火）

- 実施教科
- ①教科に関する調査（国語、算数）
 - ・主に知識に関する問題（国語A、算数A）
 - ・主に活用に関する問題（国語B、算数B）
 - ②質問紙調査（生活習慣や学習環境等）

○実施学校・学年・調査数 逗子市立小学校6年生 434名

2 逗子市の調査結果の概要（小学校6年生） *（）内は全国の平均正答率との比較です

（1）国語A 主に知識に関する問題

- ① 国語Aの設問18問中、全国の平均正答率を上回るのは15問（内5%以上は6問）、下回ったのは3問（2問は全国の平均正答率とほぼ同程度。他の1問は2%程度）でした。
- ② 学習指導要領の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の四領域にわたっての出題で、そのうち、「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は良好でした。

（2）国語B 主に活用に関する問題

- ① 国語Bの設問10問中、全国の平均正答率を上回るのは7問（うち5%以上は5問）、下回ったのは3問（2問は全国の平均正答率とほぼ同程度。他の1問は2%程度）でした。
- ② 四領域にわたっての出題で、目的や意図に応じ、複数の内容を関連付けながら自分の考えを具体的に書くことに課題が見られました。

（3）算数A 主に知識に関する問題

- ① 算数Aの設問は19問ありましたが、全国の平均正答率を上回ったのは16問（内5%以上は4問）で、下回ったのは3問（2問は全国の平均正答率とほぼ同程度。他の1問は3%程度）でした。
- ② 全体としては、全国の平均正答率と同傾向の結果で、学習指導要領の「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の四領域とも良好でした。

（4）算数B 主に活用に関する問題

- ① 算数Bの設問は13問で、全国の平均正答率を上回ったのは12問（内5%以上は4問）、下回ったのは1問（1%未満）でした。
- ② 領域別に見ての課題はありませんでしたが、判断した理由や解決方法を記述式問題形式の設問では正答率が他の設問（選択式問題形式・短答式問題形式）に比べて低くなっており、課題が感じられました。

3 調査結果を踏まえた指導の改善

■国語

言語活動の充実が重視されている中、これまで以上に国語科の授業で培う力を明確にし、読み取ったことから自分の考えを深め、まとめるといった思考力・判断力・表現力を伸ばす指導をより一層大切にしていきます。《具体例》○漢字を読む指導に関して、読みがなの正しい表記と正しい発音の指導 ○国語辞典や漢字辞典を使う習慣をつける ○ことわざの意味や使い方を正しく理解し、日常生活の中で活用することができるようにする ○新聞や雑誌、情報誌など、日常生活における様々なメディアの情報を正しく捉えるために、それらの情報の内容や形式の両面に注目し、必要な情報を探し読み取る力を付ける ○目的や意図に応じて、文と文とのつながりを考えながら、複数の文を1文に統合するなど自分の考えが明確に伝わるように内容を簡潔に書く

■算数

数量や図形に関する基礎的・基本的な知識や技能は、生活や学習の基盤になるものです。作業や体験活動を通じて、数・量についての豊かな感覚を身に付けられるように支援します。言語活動の充実が課題となっている中、「数学的な見方・考え方」の力を培うために、子ども達の考えを引き出し互いに説明する機会をもつなど、算数的活動を通して試行錯誤することでより良い解き方を見出す指導を大切にしていきます。《具体例》○繰り下がりのある減法の計算技能について、確実な定着を図る ○加法・減法の筆算は、同じ位同士で計算することを理解できるようにする ○分数の計算技能の確実な定着を図る ○測る対象に応じた適切な計器を選択し、測定する活動の充実を図る

* 以上の点について、ご家庭の協力を得て、日常的に児童に支援していきます。

4 質問紙調査の回答から見えてくること

■地域教育力：地域行事へ積極的に参加している児童が全国・県と比較し少ないことが気になりますが、自分たちが住んでいる逗子への関心は高く、地域や社会で起こっている問題や出来事に興味があり、地域や社会をよくするために何をすべきか考えている児童も比較的多いことが分かります。家族だけでなく地域の大人たちからも温かく見守られながら育てている児童が多いので、地域の教育力が子どもたちの育ちに資することを期待します。今後も、地域の協力を得ながら郷土の伝統・文化を学び、郷土愛を培っていけるように支援していきます。

■自己肯定感：人の気持が分かるようになりたいという意識、人の役に立つ人間になりたいという意識、いじめはいけないという意識は全国や県と比べ若干低い傾向にあるものの、9割を超える児童が「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を選択しています。自己肯定感を持つことは、児童が心の安らぎを得るための大切な要因の1つです。家庭との連携を深め、児童が充実感や満足感を持てるよう支援していきます。

■学校生活：「国語」や「算数」の学習については、その大切さを感じている児童が多く、比較的前向きに取り組んでいます。児童が意欲的に取り組み、内容をより理解することができるよう、指導の工夫・改善を図っていく必要があります。学習指導要領の目標を達成できるよう、各教科のねらいがより明確になるような言語活動の充実を意識した学習の実践に取り組んでいきます。

■家庭学習：「家で、学校の宿題をしている」「家で、学校の授業の予習をしている」「家で、学校の授業の復習をしている」という質問事項に対して、「している」「どちらかといえば、している」と回答した割合は、全国・県と比較すると十分な状況とはいえない結果でした。基礎学力向上には、授業のあり方はもとより自主的な予習・復習も有効だといわれています。多くの児童が市内公立中学校に進学するという状況がある以上、義務教育終了時まで継続する「自主的な家庭学習」の習慣をいかに培っていくかを市内公立小・中学校の共通課題と認識し、小学校・中学校・家庭の三者の連携を深めながら、指導方法の改善を図ります。